

明治用水頭首工復旧対策検討委員会（第5回）

議事に関する委員長メモ

1 明かり調査の結果について

- 当面の対策として、令和5年度の出水期までにP1堰柱部及び魚道下部の地盤改良を行うことについて問題はない。
- 恒久的な対策として、上流のP1堰柱から左岸魚道までの間の止水対策（矢板）について、出水期でも施工できる部分もあると考えられるため、できるだけ早く実施すること。

2 本復旧に係る対策工法について

- 基礎から再構築する基本方針に問題はない。
- 堰本体と恒久止水矢板の間について、堰と一体構造となるよう施工すること。
- 置換えコンクリートの範囲、形状について、基礎構造として詳細設計をしておくこと。
- 本復旧が完了するまでの間の対応について、施設のモニタリングを行いつつ、治水と利水の両方の観点から関係者と議論を行い、ハード、ソフト一体で検討しておくこと。